

様式3 令和7年度 小金井市立小金井第三小学校 自己評価まとめ									
学校教育目標									
○考える子ども 仲良くする子ども 働く子ども 体をきたえる子ども (○は今年度の重点項目)									
目指す学校像(ビジョン)									
【目指す学校像】		全教職員が子どもたちのために力を合わせる学校			子どもたちが主体的に学び、明るく元気な学校				
【目指す児童・生徒像】		元気に明るくあいさつをする子ども			友達と仲良く学校生活を送る子ども				
【目指す教師像】		自らの授業力を高めようと研究と修養に努める教員			自らの役割と責任を果たし教育活動を支える職員				
前年度までの学校経営上の成果と課題									
①ICTと教科書やノートの使い分けをしなが、子ども同士が関わり合う学習を行うことができている。ICTと教科書やノートのそれぞれの利点を明らかにし、さらなる授業変革を進める。②地域や保護者と連携して効果的な学習が行われている。今後も継続する。③大多数の子どもたちがしっかりとあいさつができるようになった。登校見守りをしてくれた地域の方や来校者へのあいさつができるように働きかけていく。④小金井桜の授業など地域の教育資源「もの・ひと・こと」を活用した授業づくりを通して、ふるさと小金井への郷土愛を育むことができた。⑤自分で自分の身を守る安全教育ができている。性教育も関連付け、さらに取り組みを進める。⑥子ども基本法の主旨に則り、子供の意見を聴き、子供からの視点を尊重した学校運営を行う。⑦特別支援教室、普通学級を問わず、特別な支援を必要としている児童へ対応ができている。より一層インクルーシブ教育を進める。									
	具体的方策	第1回評価		課題と対策	第2回評価		成果と次年度以降の対策		
		努力目標	成果目標		努力目標	成果目標			
授業変革の推進	児童同士がかかわり合いながら学習を進める場面に授業に意図的・計画的に取り入れる。	4	4	教員アンケート「授業では、子ども同士が何らかの形でかかわり合うことを意図して授業づくりをした」への肯定的な回答が100%で、学校公開時の保護者アンケート「子どもたち一人一人の活動が充実していた」への肯定的な回答が98%であった。今後も、子供たち自身が関わり合う必要性を感じさせるような学習の展開を意識し、授業づくりを行っていく。	4	4	教員アンケート「授業では、子ども同士が何らかの形でかかわり合うことを意図して授業づくりをした」への肯定的な回答が100%で、学校公開時の保護者アンケート「子どもたち一人一人の活動が充実していた」への肯定的な回答が98%であった。校内研究では、授業形態の工夫や、関わって学ぶための土台となる学級づくりなどに取り組んでいる。研究の成果を次年度にも引き継ぎ、児童同士が関わって学べるようにする。		
	タブレットも活用し、児童に考えさせ、主体的に問題解決を図る場面に意図的に設定する。	3	—	教員アンケート「タブレットも活用し、互いに学び合い、考える力を伸ばすように指導した」への肯定的な回答が80%であった。概ねタブレット端末を活用し、意図的に問題解決を図る場面を設定することができている。一方教員アンケートからは、異動してきた教員がタブレット端末を活用しづらい様子も明らかになった。OJT研修を活用し、タブレット端末の活用の仕方を共有する機会を設ける。	3	3	教員アンケート「タブレットも活用し、互いに学び合い、考える力を伸ばすように指導した」への肯定的な回答が77%で、保護者アンケート「学校は、子どもたちの考える力を伸ばす指導をしている」への肯定的な回答が87%であった。全学年で単元構成を見直し、児童が主体的に問題に取り組めるような実践を行い、OJTなどを通して全教員の授業変革を目指す。		
豊かな心の育成と体力の向上	全校朝会時の校長講話の話題として取り上げ、児童へ直接働きかけるとともに、担任が学級指導の中で随時あいさつの大切さについての指導を行う。	4	4	教員アンケート「元気なあいさつをするよう指導している」への肯定的な回答が100%、児童アンケート「元気よくあいさつができた」に肯定的な回答が92%であった。全校的によくあいさつに取り組んでいることが分かる。高学年で否定的な回答が増えている傾向があるが、代表委員会のあいさつ運動などの活動を通して、あいさつの大切さについて指導していく。	4	3	教員アンケート「元気なあいさつをするよう指導している」への肯定的な回答が97%、児童アンケート「元気よくあいさつができた」に肯定的な回答が88%であった。「あいさつ運動」などの一過的な取組みだけでなく、全校朝会や集会などでも継続して組織的に指導することで、児童の可能な限りいつでも元気なあいさつができるようにする。		
	「その子なりにどれだけ伸びたか」を評価する個人内評価を中心にして、あらゆる学校教育の場面において、児童を褒めて育てることを中心に指導する。	4	3	教員アンケート「認め、励まし、支援することを心掛けている」への肯定的な回答が100%、児童アンケート「自分にはよいところがある」に肯定的な回答が89%であった。否定的な回答をした児童は88人いて、特に高学年になるにつれて増える傾向がある。学習場面だけでなく、行事など様々な場面で児童のよさを認め、励まし、支援していく。	4	3	教員アンケート「認め、励まし、支援することを心掛けている」への肯定的な回答が100%、児童アンケート「自分にはよいところがある」に肯定的な回答が88%であった。振り返りの精度は、児童同士で話し合いながら振り返ることで高まることが示されている。引き続き行事や授業での振り返り活動を対話的に行うことで、自己有用感や自己肯定感を高めしていく。		
	日常の児童観察と学期ごとのいじめアンケートの実施によるいじめの発見と早期に対応して問題の解決を図る。	4	—	教員アンケート「いじめはしない・させない・許さない指導を徹底した」への肯定的な回答が100%であった。毎月のいじめ実態把握や6月のふれあい月間アンケートにより、いじめの早期発見、早期対応、継続的な観察を組織的に行っている。Q-Uの情報も活用し、今後も未然防止・早期発見に尽力する。	4	3	教員アンケート「いじめはしない・させない・許さない指導を徹底した」への肯定的な回答が100%で、保護者アンケート「学校は、子どもの心に寄り添って温かく接している」への肯定的な回答が89%であった。特別の教科道徳、総合的な学習の時間での人権をテーマにした学習を拡充することで、いじめやいじり、からかいが人権侵害であることや、相互理解の重要性について全校児童が学習できるようにする。		
	各学級で外遊びをするように児童へ働きかける。	3	3	教員アンケート「校庭遊びができる休み時間には、外遊びをするよう指導した」への肯定的な回答が88%、児童アンケート「校庭遊びができる休み時間は外遊びをした」に肯定的な回答が87%であった。高学年の否定的な回答が多く、6年生は30%を超える。委員会活動や行事等の準備で校庭遊びに行けないこともある。外遊びにいける時間を確保した上で、声かけを続ける。	3	3	教員アンケート「校庭遊びができる休み時間には、外遊びをするよう指導した」への肯定的な回答が84%、児童アンケート「校庭遊びができる休み時間は外遊びをした」に肯定的な回答が84%であった。現在も中休みと昼休みとで、学年を分散させて外遊びができるようにしている。安全面にも配慮しながら、全校一斉に校庭で遊べるようにするなど、外遊びができる時間を確保する。また、児童の運動機会の確保について家庭へ働きかけを進めていく。		
進教育健康・康の安教推全	毎月の避難訓練や軽微な地震が発生した時に「お・か・し・も」の基本的な行動様式を繰り返し伝え、子供たちが身に付けることができるようにする。	4	4	教員アンケート「児童が自らの安全を守るための適切な行動ができるように指導した」への肯定的な回答が100%、児童アンケート「自分の命は自分で守ることを意識して、避難訓練に取り組んだ」への肯定的な回答が97%であった。ほとんどの児童は自分の命を自分で守ることの大切さを意識して取り組んでいることが分かる。引き続き、様々な状況を想定した訓練を行い、どのような場面でも適切な行動がとれるように指導していく。	4	4	教員アンケート「児童が自らの安全を守るための適切な行動ができるように指導した」への肯定的な回答が100%、児童アンケート「自分の命は自分で守ることを意識して、避難訓練に取り組んだ」への肯定的な回答が97%であった。様々な状況でも児童が対応できるように、形式的な訓練だけでなく、「予告をしない」や「休み時間」、「清掃時間」などでの避難訓練の実施を行う。		
心上意ふのや識る醸愛のさ成校向と	各教科等で学校や身近な地域にある「もの・ひと・こと」を活用した授業づくりを進める。地域や外部の方をゲストティーチャーとして授業に来てもらうなどの取組を進める。	3	4	教員アンケート「学校や身近な地域を活用した授業づくりに取り組んだ」への肯定的な回答が81%、児童アンケート「小金井やこのまちがすき」に肯定的な回答が93%であった。食育や総合的な学習の時間など、より積極的に小金井市を取り上げて学習を行う。	3	4	教員アンケート「学校や身近な地域を活用した授業づくりに取り組んだ」への肯定的な回答が85%、児童アンケート「小金井やこのまちがすき」に肯定的な回答が93%であった。食育や総合的な学習の時間など、より積極的に小金井市を取り上げて学習を行い、地域の教育資源の活用を進める。また、熟識などで地域の方と交流する機会を増やし、今以上に授業に関わる機会を増やせるようにする。		
利子の供尊の重権	「三小のやくそく」の改訂や学校行事の内容、よりより学校生活を送るために「子供の意見を聴く」ことの実践を進める。	4	—	教員アンケート「子供の声を聴くことに努力した」への肯定的な回答が100%であった。今後も、児童自身のどうなりたいのか、どうしたいのかという思いに耳を傾けながら、学級のルールや学校行事への取組みなどを指導していくようにする。	4	3	教員アンケート「子供の声を聴くことに努力した」への肯定的な回答が100%であった。保護者アンケート「学校は、子供の声を聴くことに取り組んでいた」への肯定的な回答が82%であった。今現在代表委員会で、「三小のやくそく」を変えるための取組を行っている。子供の声を聴くことで学校教育目標が具現化できるように、教育活動の見直しを通して具体的な取組みを考えていく必要がある。		
の連やてクテコ推携地の「イム進・域保ル」ユ協と護とス二働の者し	三小未来塾や地域学校協働活動を立ち上げると共に、保護者や地域の方、ボランティアを活用した授業を行う。	3	—	保護者や地域の方、ボランティアを活用した授業を行った学級が73%であった。教職員に配布している「もの・ひと・こと」活用一覧表を積極的に活用するとともに、ゲストティーチャーとして招く方を増やせるよう、熟識などでPTAや保護者と積極的に関わりつながりを増やしていく。	3	4	保護者や地域の方、ボランティアを活用した授業を行った学級が72%であった。保護者アンケート「学校は、保護者や地域の教育力を生かして教育活動を進めている」への肯定的な評価は95%であった。読み聞かせなど授業外でのご協力もいただいている。今後は学校発だけでなく、地域が有する魅力や資源そのものを教育内容に位置付け、地域発の学習機会が創出する取組みを推進する。		
育別向の共の支け実生充援た現社実教特に会	定期的に特別支援教育校内委員会(連携)を開催し、学級担任と巡回指導教員との情報連携ができるようにする。	3	—	特別支援教育校内委員会(連携)を2月に1度行って情報連携をした。一人一人の状況について、管理職と関係教員で情報連携を行い、対応方針を確認した。保護者との情報交換で、大空教室への入室を希望する家庭が多い現状があり、このニーズに応えていくための方策を考えていく。	3	4	特別支援教育校内委員会(連携)を2月に1度行って情報連携をした。保護者アンケート「学校は、子どものことについて連絡・相談したい時に適切に応じてくれる」への肯定的な回答が90%であった。通常級の中でも個々の特性を生かした学級経営や授業を行えるように、校内での特別支援研修の拡充を図る。		
革働教のき職推方員進改の	ICTを活用した教材の相互利用や情報共有を行う。	3	3	教員アンケート「ICTを活用して、教材の相互利用や情報共有を行い授業準備をした。」への肯定的な回答が88%、学校公開時の保護者アンケート「ICTを活用し、子どもたちにとって取り組みやすい授業だった。」に肯定的な回答が86%であった。ただ手法をまねるだけでなく、指導の意図や教材への理解についても積極的に共有し、深い学びにつなげるようにする。	4	4	教員アンケート「ICTを活用して、教材の相互利用や情報共有を行い授業準備をした。」への肯定的な回答が92%、学校公開時の保護者アンケート「ICTを活用し、子どもたちにとって取り組みやすい授業だった。」に肯定的な回答が94%であった。ICT推進委員会を中心に、ICTに関するOJTを継続している。AIの活用や、デジタル端末の効果的な活用法の周知など、取組みを継続する。		